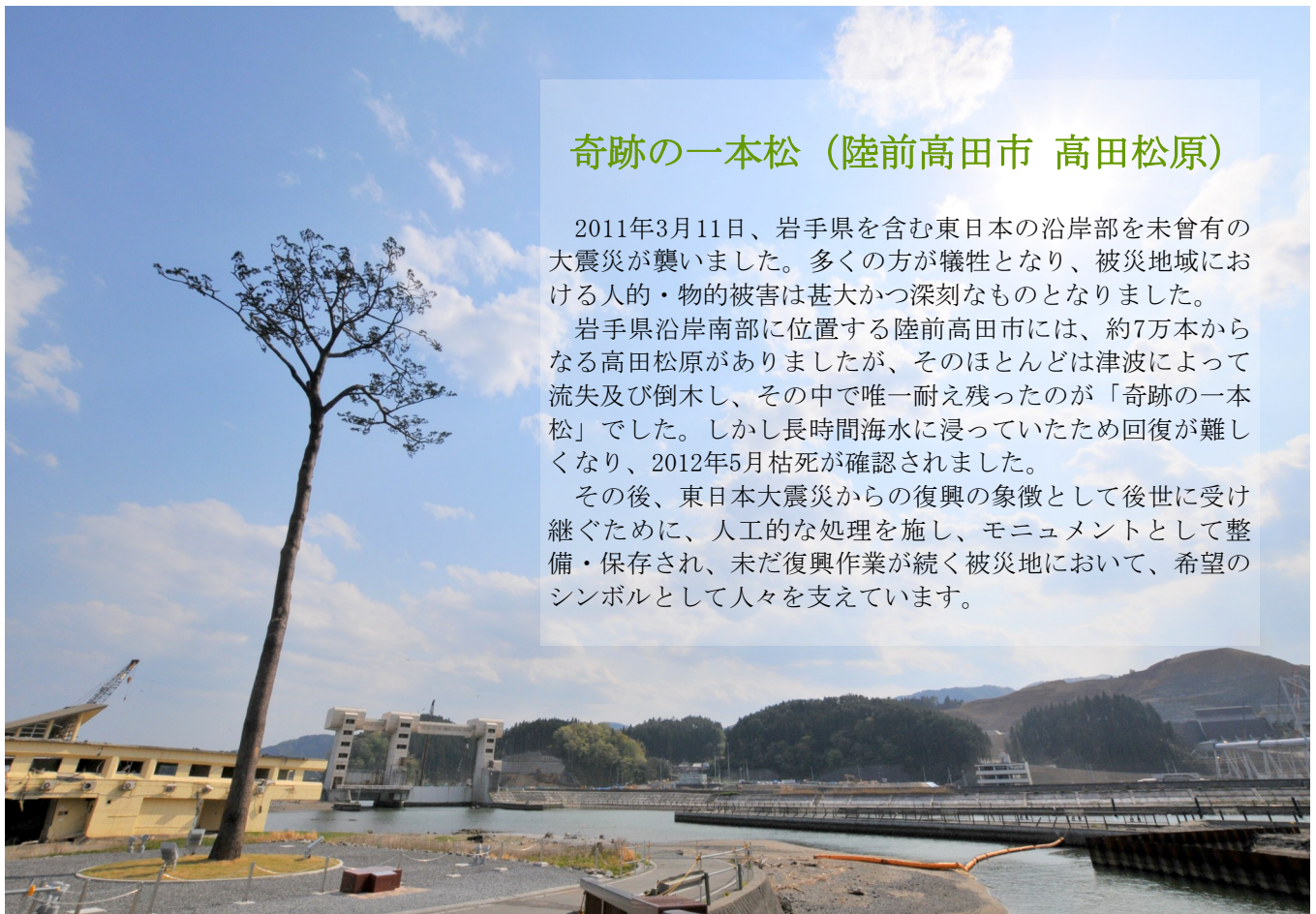


第11回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

大学間連携と地域活性化への取り組み

2014年9月13日(土)・14日(日)

会場:いわて県民情報交流センター アイーナ



奇跡の一本松（陸前高田市 高田松原）

2011年3月11日、岩手県を含む東日本の沿岸部を未曾有の大震災が襲いました。多くの方が犠牲となり、被災地域における人的・物的被害は甚大かつ深刻なものとなりました。

岩手県沿岸南部に位置する陸前高田市には、約7万本からなる高田松原がありました。そのほとんどは津波によって流失及び倒木し、その中で唯一耐え残ったのが「奇跡の一本松」でした。しかし長時間海水に浸っていたため回復が難しくなり、2012年5月枯死が確認されました。

その後、東日本大震災からの復興の象徴として後世に受け継ぐために、人工的な処理を施し、モニュメントとして整備・保存され、未だ復興作業が続く被災地において、希望のシンボルとして人々を支えています。

主催: 全国大学コンソーシアム協議会

共催: いわて高等教育コンソーシアム

後援: 文部科学省、総務省、経済産業省
一般社団法人国立大学協会、公立大学協会
社団法人日本私立大学連盟、日本私立大学協会
全国公立短期大学協会、日本私立短期大学協会
全国知事会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社
日本経済新聞社、一般社団法人共同通信社
岩手県、盛岡市、岩手日報社

メインテーマ「大学間連携と地域活性化への取り組み」

グローバル化が進む今日、大学を取り巻く環境も大きく変わり始めています。例えば「大規模公開オンライン講座（MOOC: Massive Open Online Course）」の展開は、誰でもどこでも大学の授業を学べることから、ゲーテンベルクの印刷革命にも匹敵する「知」の解放とも言われ、大学のありように関する課題を突きつけています。

こうしたグローバルな課題に対して、ローカルな課題に着目することは、視野を矮小化させるようにも思われますが、必ずしもそうではありません。グローバル・リーダーの育成が推奨される一方で、3.11の被災地においては復興を推進する地域リーダーが必要とされています。両者は対極的に位置づけられるとはいえ、リーダーの資質や能力など、コアの部分は共通しており、排他的な存在ではありません。

大学のありようについても、グローバルな問題と地域的な問題の核心部には相通じるところがあり、地域的な課題を解決することがグローバルな課題解決への近道となることがあります。もはや地域は閉域ではなく、世界に開かれ、世界に通じています。少子高齢化や過疎化への対応は、先進的事例として来るべき社会のモデルに成り得ますし、東日本大震災からの復興もまた、次世代や他国への貴重な参照事例となるでしょう。地域課題の解決が、地域発のグローバルスタンダードへと展開する可能性があります。

このような観点と展望を持ち、大学が地域で果たす役割に目をむけ、地域の諸課題を解決する先進的な取り組みについて学び・考察して行きたいと思えます。MOOCにも見られるように、カギとなるのは「連携」です。地域的課題も複雑化・巨大化してくると、もはや一大学では解決が困難です。大学間のみならず諸機関が連携することで、知恵と力に相乗効果が生まれ、難題の克服と地域の活性化が実現できるでしょう。

プログラム

第1日目:2014年9月13日(土)

時間	内容	場所
12:00~13:00	■受付	アイーナ 7F ホール前
12:00~17:00	■ポスターセッション	8F 会議室804(B)
12:00~13:00	■ポスターセッション コアタイム	8F 会議室804(B)
12:15~12:45	■全国大学コンソーシアム協議会 総会(対象:コンソ組織のみ)	7F 学習室1
13:00~13:15	■挨拶 ・協議会代表者挨拶 赤松 徹眞 (全国大学コンソーシアム協議会 代表幹事、龍谷大学 学長) ・開催地代表者挨拶 塚 茂樹 (岩手大学 学長) ・来賓挨拶 達増 拓也氏 (岩手県知事)	7F ホール
13:15~16:00	■シンポジウム 【テーマ】 大学間連携と地域活性化への取り組み 【パネラー】 松本 長彦氏 (愛媛大学 理事・副学長) 小田 隆治氏 (山形大学 地域教育文化学部 副学部長) 岡田 豊基氏 (神戸学院大学 学長) 小沢 喜仁氏 (福島大学 副学長(地域連携担当)) 【コーディネーター】 大森 不二雄氏 (首都大学東京 大学教育センター 教授)	7F ホール
16:00~16:15	■ポスターセッション企業ブースPRタイム	7F ホール
16:00~17:00	■ポスターセッション コアタイム	8F 会議室804(B)
17:00~17:40	■高等教育政策の動向(解説) 里見 朋香氏 (文部科学省 高等教育局 大学振興課 課長)	7F ホール
17:40~18:15	■会場移動および情報交換会受付	
18:15~20:15	■情報交換会	ホテルメトロポリタン盛岡 本館

第2日目:2014年9月14日(日)

時間	内容	場所
9:00~9:30	■受付	アイーナ 8F 会議室804(A)前
9:30~11:30	■第1分科会:コンソーシアムと企業との連携 ~ICカードとキャンパスリポーターによる地域の活性化	8F 会議室803
	■第2分科会:未内定卒業生20%12万人の防止策、インターンシップについて	8F 研修室812
	■第3分科会:国際交流とコンソーシアム	8F 会議室804(A)
	■第4分科会:復興と連携	7F 学習室1

シンポジウム「大学間連携と地域活性化への取り組み」

教職員の能力開発やFDの取り組み、学生ボランティアの組織化や復興を担う人材育成など、大学間連携の多様な実績を紹介し、地域の課題解決や活性化に関して、大学が連携することで生まれた成果や、これからの連携のあり方の可能性について、パネラー及び会場の皆さまと共に考えます。



～愛媛大学における大学間連携の取組～

まつもと おさひこ
松本 長彦 氏

愛媛大学 理事・副学長（教育・学生支援担当）

1987年広島大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学、87年広島大学文学部助手、90年愛媛大学法文学部助教授、2000年法文学部教授となり、法文学部副学部長、アドミッションセンター長、学長特別補佐、共通教育センター長を経て、2012年より現職。教育・学生支援機構長を兼務。専門は、哲学・西洋哲学史。



～東日本広域大学間連携組織“つばさ”プロジェクトの地域連携事業～

おだ たかはる
小田 隆治 氏

山形大学 地域教育文化学部 副学部長

山口県美祢市生まれ。山形大学地域教育文化学部・副学部長教授。教育開発連携支援センター・FD部門長。筑波大学大学院博士課程生物科学研究科修了（理学博士）。2005-07年山形大学学長特別補佐。2008年から東日本地域の国公私立51大学等からなる大学間連携組織「FDネットワーク“つばさ”」の議長。著書：『学生主体型授業の冒険』（編著、ナカニシヤ出版）、『生物学と生命観』（単著、培風館）他



～震災と復興の取り組み～阪神・淡路大震災を経験したコンソーシアムとして～

おかだ とよき
岡田 豊基 氏

神戸学院大学 学長、
大学コンソーシアムひょうご神戸 理事長代行

1984年4月 鹿児島大学法文学部助教授、1987年4月 神戸学院大学法学部助教授、1993年4月 同教授、2003年4月 同学部長（～2008年3月）、2010年7月 同学長（現在に至る）、2012年4月 日本私立大学協会常務理事（現在に至る）、2013年4月 大学コンソーシアムひょうご神戸副理事長、2014年6月 同理事長代行（現在に至る）。

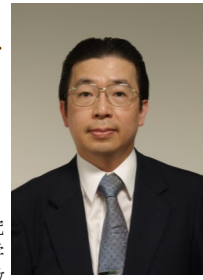


～ふくしまの復興を担う『強い人材』づくり大学間共同教育事業の取組について～

おざわ よしひと
小沢 喜仁 氏

福島大学 副学長（地域連携担当）、
アカデミア・コンソーシアムふくしま 事業推進会議議長

1954年山梨県生まれ。1984年3月東北大学大学院工学研究科機械工学専攻博士課程修了（工学博士）。1983年東北大学工学部基礎工学教室助手、1986年福島大学教育学部助教授、1999年10月同・教授。2004年10月共生システム理工学類・教授。2012年4月福島大学副学長（地域連携担当）、地域創造支援センター長、国際交流センター長併任 アカデミア・コンソーシアムふくしま事業推進会議議長（現在に至る）。



<コーディネーター>

おおもり ふじお
大森 不二雄 氏

首都大学東京 大学教育センター 教授

1982年 京都大学文学部哲学科社会学専攻卒業。
1983年 文部省。岐阜県教育委員会管理部長、在英国大使館一等書記官、在米国大使館参事官を含め、教育行政に従事。
2002年 文部科学省高等教育局視学官（WTO貿易交渉等を担当）。
2003年 熊本大学 大学教育機能開発総合研究センター教授
2008年 ロンドン大学Ph.D.学位。
2010年 首都大学東京大学教育センター教授。

高等教育政策の動向（解説）【9月13日（土）17:00～17:40】

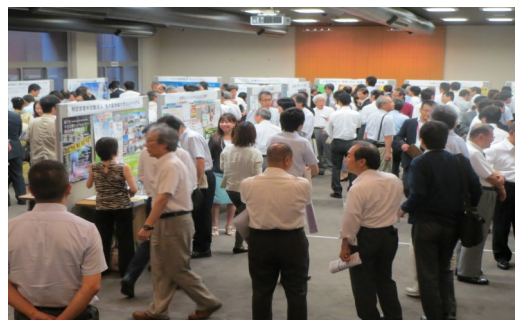


さとみ ともか
里見 朋香 氏（文部科学省 高等教育局 大学振興課 課長）

1990年文部省入省。岡山県教育委員会文化課長、東大企画調整役（兼）総長秘書室長、京大総長室副室長（総長室担当部長）を経て、2012年科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長。2013年7月から現職。

ポスターセッション【9月13日（土）12:00～17:00】

各コンソーシアムが取り組んでいる単位互換、インターンシップ、生涯学習、地域学、高大連携推進、シンクタンク機能などの様々な活動状況を紹介し、実践的な経験や取り組みなどのノウハウを共有し、参加者間の情報の交換の場として提供いたします。



■場所：アイーナ 8F 会議室804(B)

■コアタイム：12:00～13:00
16:00～17:00

分科会【9月14日（日）9:30～11:30】

第1分科会(一般社団法人 教育ネットワーク中国) 場所:8F 会議室803

コンソーシアムと企業との連携 ～ICカードとキャンパスリポーターによる地域活性化

戦略的大学連携支援を契機に、教育ネットワーク中国の生涯学習の受講証はICカード化され、それを銀行・交通系カードとも連携しました。さらに「ひろしま地域カード連携コンソーシアム」を地元企業と共に設立し、地域経済活性化に努めています。中国新聞社との協定により、寄付講座が提供され、大学生が大学情報を、さらに各界リーダーを取材して発信する「キャンパスリポーター制度」も始まりました。コンソーシアムが企業と連携する意義についてこれらの事例を通して考えます。

第1分科会プログラム	
9:30～9:40	趣旨説明
9:40～10:20	「教育ネットワーク中国と地元企業の連携によるICカードを活用した地域経済活性化に関する取組みと将来像」 報告者:倉本 英一氏(広島銀行個人営業部 担当部長)
10:20～11:00	「教育ネットワーク中国と中国新聞社の連携取組及びキャンパスリポーター制度の概要と意義」 報告者:福田 由美子氏(広島工業大学教授、一般社団法人教育ネットワーク中国運営委員)
11:00～11:30	まとめ・意見交換
コーディネーター	川野 祐二氏(一般社団法人教育ネットワーク中国代表理事、エリザベト音楽大学学長)

第2分科会(公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩) 場所:8F 研修室812

未内定卒業生20%12万人の防止策、インターンシップについて

平成25年3月卒業56万人のうち、12万人の未内定卒業者が発生しここ数年来の事象です。全体の20%にもなり、大きな社会問題であり、大学経営の根幹を揺るがす事態でもあります。求人倍率0.6の有名企業に殺到し、3.7倍の中小企業に目が向かないためです。この事態を惹起しているのは全国版就職ナビであり、大学の学生指導の結果です。この問題に対処する方策を「じんナビ」の実績を踏まえ報告、提案いたします。

第2分科会プログラム	
9:30～10:15	「未内定卒業生20%12万人の防止策 【神奈川県就職ナビ「じんナビ」の実績】」 報告者:中村 裕氏(公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩 チーフディレクター)
10:15～11:00	「就業力を高めるインターンシップとは？ 【大学生インターンシップについて】」 報告者:増山 弘之氏(公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩 チーフディレクター)
11:00～11:30	質疑応答
コーディネーター	山根 裕氏(公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩 チーフディレクター)

第3分科会(特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪) 場所:8F 会議室804A

国際交流とコンソーシアム

大学のグローバル化推進、留学生30万人計画などが打ち出される中で、大学にとって海外の大学や留学生との交流は大きな課題です。個々の大学では様々な取り組みがなされていますが、コンソーシアムとして国際交流にどう取り組むべきか、3つのコンソーシアムの多様な取り組み事例の紹介を通して考えます。

第3分科会プログラム	
9:30～9:35	趣旨説明等
9:35～10:05	「『ひょうご留学生インターンシップ』について」 報告者:中水 かおる氏 (大学コンソーシアムひょうご神戸 副事務局長) 報告者:長谷川 淳子氏 (株式会社ナジック・アイ・サポート営業企画部 課長代理)
10:05～10:35	「台湾高等教育合作基金会との相互交流」 報告者:山本 英一氏(関西大学 外国語学部 教授)
10:35～11:05	「大学コンソーシアム京都の国際交流活動」 報告者:塩野 敬子氏 (公益財団法人大学コンソーシアム京都教育開発事業部 主幹)
11:05～11:30	質疑応答
コーディネーター	三宅 努氏 (特定非営利活動法人大学コンソーシアム大阪 事務局長)

第4分科会(いわて高等教育コンソーシアム) 場所:7F 学習室1

復興と連携

東日本大震災に対して高等教育機関はどのように関わってきたのでしょうか。大学が連携することでどのような事業が可能となったのでしょうか。

この分科会では、学都仙台コンソーシアムの復興大学としての活動、いわて高等教育コンソーシアムの教育支援活動、全国大学コンソーシアム協議会にご協力を得て実現した全国大学からのボランティア教員による震災復興特別講義を通して、震災復興への貢献のあり方等について検討します。

第4分科会プログラム	
9:30～10:00	「『復興大学』復興人材育成教育コースの活動と展望」 報告者:関内 隆氏 (東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授)
10:00～10:30	「大槌小学校への学習支援」 報告者:佐々木 義孝氏(盛岡大学文学部 教授)ほか学生
10:30～11:00	「全国大学ボランティア教員による震災復興特別講義」 報告者:後藤 尚人氏(岩手大学人文社会学部 教授、いわて高等教育コンソーシアム 事業推進責任者)
11:00～11:30	全体討論
コーディネーター	齋藤 俊明氏(岩手県立大学 理事(副学長))

申込方法

STEP1: 申込み(先着順)

- ① 申込みURLから、「メールアドレス確認フォーム」にアクセスし、メールアドレスを登録する。
 - ② 登録したメールアドレスに「参加申込フォーム」のURLアドレスが届く。
 - ③ メールに記載されているURLにアクセスし、申込み手続きをする。
 - ④ 申込完了後、「申込み完了メール」が届く。
※ 申込み完了メールが届かない場合は、協議会事務局までお問い合わせください。
- ※ 申込み完了後の変更は、一切受け付けられません。
※ パネラー、コーディネーター、各報告者(分科会報告者含む)の方は申込みは不要です。

STEP2: 参加費の支払

- ① 申込み手続き完了後、郵送で払込票が届く。
 - ② 最寄りのコンビニエンスストアで参加費を支払う。
※ 取り扱い可能店は払込票の裏面に記載。
なお、銀行・ゆうちょ銀行などの金融機関ではお支払いができませんのでご注意ください。
【参加費支払締切: 2014年8月8日(金)24:00まで】
- ※ 申込み手続き・参加費支払いが完了していない方は参加できませんのでご注意ください。

お支払いいただく参加費につきましては、印刷費、WEBシステム運営費、通信費など、諸準備に使用いたしますので、いかなる理由があっても返金等には応じられません。ご了承ください。報告集の代金をお支払いいただいている場合は、欠席された方にも後日送付いたします。

STEP3: 参加証の発行

- 参加費の支払いが完了したら、参加証がメールで届く。
- ※ 8月22日(金)になっても参加証(メール)が届かない場合は、協議会事務局までお問い合わせください。

STEP4: 当日

参加証(メール)をプリントアウトのうえ持参し、受付にて提示する。

- ※ 代理の方が参加される場合は当日の受付にてお申し出ください。

申込期間

2014年6月7日(土)～7月31日(木)

【参加費支払締切: 2014年8月8日(金)24:00まで】

※当日申込みは、一切受けできませんので、ご注意ください。

参加費

申し込み区分	参加費	情報交換会費	報告集	合計
参加のみ	3,000円	-	-	3,000円
参加+情報交換会	3,000円	3,500円	-	6,500円
参加+報告集	3,000円	-	1,000円	4,000円
参加+情報交換会+報告集	3,000円	3,500円	1,000円	7,500円

申込みURL(アドレス)

<https://event.consortium.or.jp/zenkoku11/>

もしくは

大学コンソーシアム京都



全国大学コンソーシアム協議会 加盟組織

ご所属の機関が、全国大学コンソーシアム協議会の加盟組織かどうかについては、以下のページをご参照ください。

全国大学コンソーシアム協議会 加盟組織に属している場合、申込みの際、所属組織をご入力ください。

全国大学コンソーシアム協議会 加盟一覧



問い合わせ先

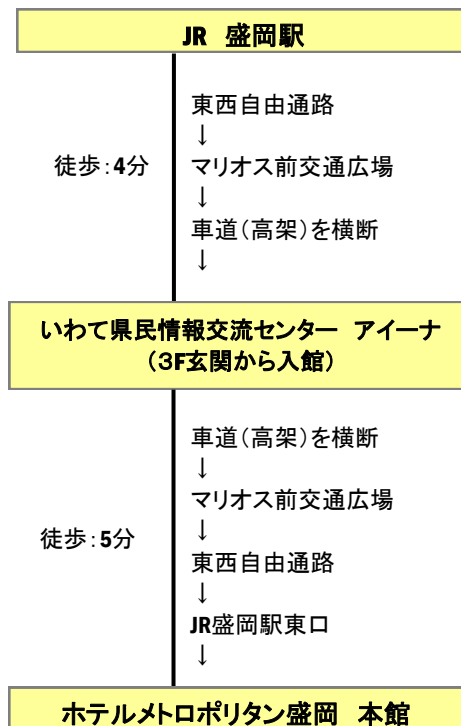
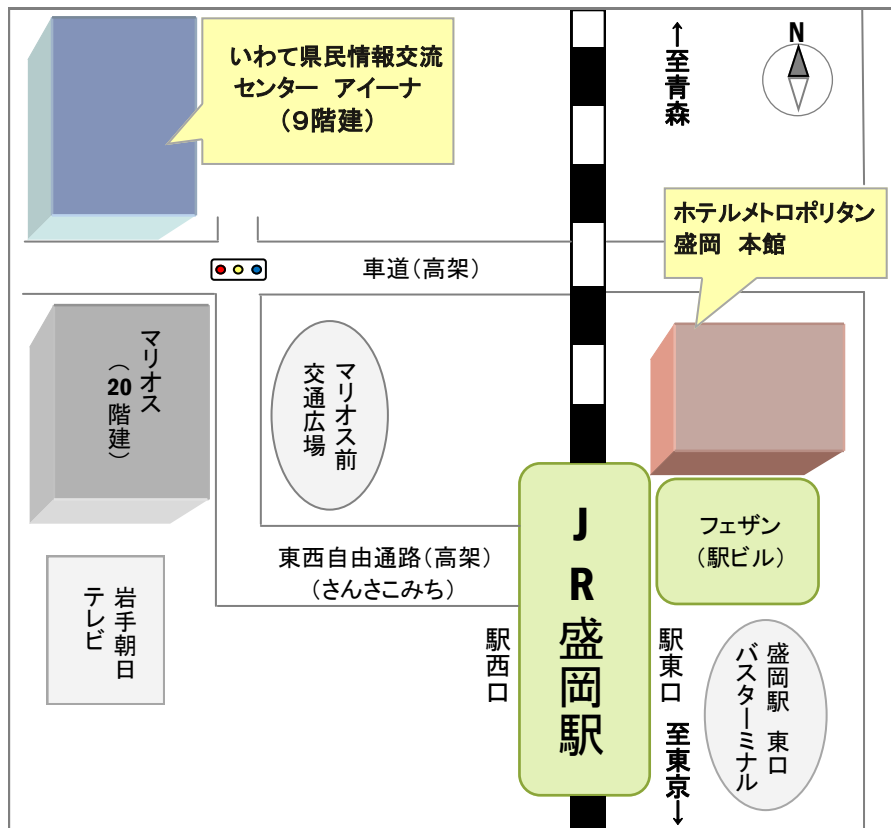
全国大学コンソーシアム協議会 事務局
(大学コンソーシアム京都内)

【受付時間】火曜～土曜 9:00～17:00

電話 : 075-353-9100

Email : alljapan-consortium@consortium.or.jp

会場へのアクセス



全国大学コンソーシアム協議会【設立趣旨】

近年、全国各地で大学連携、地域社会、産業界との連携による大学連携、大学コンソーシアムの取り組みが進められています。大学を超えた連携型教育・研究は、今やひとつの形態として大学教育の一角を担うようになりました。また、その地に根ざす大学はもちろんのこと、地域の歴史、立地、特性を背景として設立された地域組織としての大学コンソーシアムは、いくなれば高等教育機関と地域社会とが深く結びつき、大学の発展と地域の活性化を実現する取り組みでもあります。

現在、高等教育は世界的な水準で質の保証が問われ、教育・研究は社会の評価が問われる時代でもあります。言い換えれば、社会の多様な教育ニーズに応え、特色ある教育・研究を創造することが求められています。

このような時代にあって、世界的にも高等教育を構成する重要なシステムである大学コンソーシアムは、連携でこそ実現可能な新しい学びと、知の社会還元を実現する可能性を有しています。

このような流れの中で、発展段階にあるわが国の連携型の教育・研究の発展を目指し、各地で培ってきた「地域力」を「組織力」に換えることにより、相互に内容を共有できる新たな研究交流の場を提供していきたいという考えにもとづき、「全国大学コンソーシアム協議会」を設置しました。

全国大学コンソーシアム協議会【概要】

全国大学コンソーシアム協議会は、国内各地域の大学コンソーシアム(大学連合体・大学連携組織)からなる協議会組織で、各大学コンソーシアムの情報交流・研究交流を図り、わが国の高等教育の発展に資することを目的として、2004年11月28日に28大学コンソーシアムからなる組織として発足しました。

事務局 【受付時間】 火曜～土曜 9:00～17:00

〒600-8216

京都市下京区西洞院通塩小路下ル

キャンパスプラザ京都 大学コンソーシアム京都内

全国大学コンソーシアム協議会 事務局

電話 : 075-353-9100

FAX : 075-353-9101

Email : alljapan-consortium@consortium.or.jp

